

令和4年度第1回狭山市廃棄物減量等推進審議会

開催日時 令和4年7月14日（木） 午前10時から午前11時15分

開催場所 奥富環境センター リサイクルプラザ4階 会議室

出席者 野平委員、小川委員、岡村委員、横山委員、田口敏幸委員、指田委員、
中村委員、田口すみ子委員、奥本委員、鎌田委員、丸山委員、山口委員、
川内委員 以上 13名

欠席者 鍋谷委員、山梶委員

事務局 神田環境経済部長、久保田環境経済部次長、小林資源循環推進課長、
北田奥富環境センター所長、岡野奥富環境センター副所長、
山崎稻荷山環境センター副所長、資源循環推進課 橋本主幹、木村主査

傍聴者 なし

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ（市長）

4 自己紹介

5 会長・副会長の選出

会 長 小 川 洋 之 委 員

副会長 中 村 光 世 委 員

6 議 題

（1）狭山市の清掃行政について（資料1）

事務局 別添、資料1の廃棄物の概念、廃棄物の処理に関する計画、廃棄物の処理
フロー、処理施設、令和3年度ごみ処理経費、令和3年度ごみ処理量につ
いて説明

〔質疑応答〕

議長 これに関して、意見・質問があればお願いします。

委員 2ページ 2－3排出目標の家庭系ごみ1人1日排出量について、コロナ前と比べると、どのような状況か。巣ごもりにより、家庭系ごみが増えたと思っていたが、減っている状況は、どのように捉えているか。

事務局 令和2年度は巣ごもりや身のまわりの片づけにより、家庭系ごみが増えたが、令和3年度は、家庭系ごみがコロナ前と同程度で、事業回復傾向から事業系ごみが増えた状況にある。ごみ全体としては減少傾向となっている。家庭系ごみに限ると、コロナ前の平年並みに戻った状況である。

委員 4ページ 5でごみ処理費や資源化処理費が出ているが、ごみ処理において有償物となるものはどのようなもので、金額はどの位になるのか。

事務局 有償物となっているのは、アルミ缶、スチール缶、古紙・古布、ペットボトル、鉄廃材、もやさないごみを破碎した磁性物など。令和3年度についてはコロナ状況下で原材料費が値上がり、売払い単価も上昇傾向であった。収入額は令和3年度9,300万円、令和2年度5,600万円となっている。処理量は減っているが、単価が上昇している。

委員 国の政策により、プラスチックを一括回収することになったが、狭山市への補助金はあるのか。

事務局 新たに収集するなど、一括回収の実施に伴う経費については補助対象となるが、狭山市では新たな経費が生じないことから、補助金交付はない。

委員 2ページ 2－3排出目標の令和13年度の計画目標値は、どのように算定したのか。

事務局 令和2年度が基準年となっている。今後実施する施策、例えば啓発活動や分別などの施策効果を見込み算定したもの。家庭系ごみが予想よりもかなり低くなったことから3年度の数値が低くなっている。家庭系ごみ1人1日の排出量は見た目変わっていないが、総排出量の削減は難しいものと考えており、できる限りの施策を踏まえた上での数値となっている。

委員 稲荷山環境センターでのもやすごみについても含めての目標値となっているのか。

事務局 もやすごみを含めての目標値となっている。稲荷山環境センターは現在、3炉で焼却を行っているが、10年後は2炉で行う目標である。

事務局 稲荷山環境センターの今後については、令和3年度、昨年度に施設整備基本方針を決定した。地元自治会の協力をいただき、引き続き現在の場所で、継続して焼却処理を行なうことを決定した。現在の稲荷山環境センターは、焼却炉が3炉で1日の処理能力は165トンで、近年の人口減少、もやすごみ量が減少する状況から、3炉を2炉とする可能性についての基礎調査を令和元年度に行い、令和3年度に精査して施設整備基本方針を決定したもので、今ある焼却炉3炉を2炉にするために、家庭系ごみ1人1日の排出量603グラムを計画目標値として定めた。

委員 2ページ 2-3排出目標に事業系ごみの排出目標値が載っているが、工業団地等で新規に稼働する工場や事務所が増えれば、必然的に事業系ごみは増加する。一般家庭と比べ、ごみ減量等の啓発は難しいと思う。企業に対し、具体的にどのようにごみの減量を求めていくのか。

事務局 市内の多量排出事業者に対して、減量計画書の提出を求めている。この中で、分別仕切れていないものについて、分別するようにお願いをしている。排出量も順調に減ってきている状況で、今後も事業者に対して、ごみの減量と分別についての啓発、指導に努める。

事務局 元年度末から、2年度、3年度については、コロナ禍の影響により事業系のごみが増えてきているが、事業者においては減量に努め、令和4年度からの一般廃棄物処理基本計画・現在の計画の前計画において、家庭系ごみについては排出目標に達することができなかったが、事業系ごみは減量化することができた。家庭系ごみについては、令和元年度から令和2年度にかけて増えている状況から、令和3年度も増加傾向と見込んでいたが、結果としては減少した状況にある。

委員 紙パックをリサイクルするとトイレットペーパーになったり、リサイクルすると元の素材に近い製品になると考えていた。プラスチックのリサイクルにおいても同様にプラスチック製品になると考えていたが、プラスチックを燃やして、その熱を利用することもリサイクルと考えられているようだが、狭山市では、プラスチックのリサイクルはどのようになっているか。

事務局 狭山市では容器包装リサイクル協会にプラスチック全量を搬出している。ここでは、処理先の鉄鋼メーカーでコークスの代用として使用している状況です。鉄の還元剤として利用していて、プラスチックを燃やした熱を利用したリサイクルはしていない。ペットボトルは単一素材なので利用しやすいが、プラスチックにはいろいろな素材があるので、元の製品へのリサイクルが難しい。

7 その他（次回の審議会予定等）

8 閉 会

配付資料

- ・ 令和4年度第1回狭山市廃棄物減量等推進審議会 次第
- ・ 資料1 狭山市の清掃行政について
- ・ 狭山市廃棄物減量等推進審議会委員・担当職員名簿